

令和 3 年度

自己評価と学校関係者評価

保育目標	・コロナ禍における感染対策を欠かさず、子どもたち、保護者、職員が「感染しない、させない」という志をもって毎日を過ごす。 ・コロナ禍での保育内容を工夫し、充実させる。 ・ひとりひとりの特性や家庭環境をふくめた内面の深いところにある意欲やこだわりをくみ取り、認め、褒めることでやる気を出させる。
------	---

★当園知的教材研究、指導講師（平田匡邦先生）による評価

幼稚園教育課程と保育指針の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園がこれから担う役割について検討する。

重点項目	具体的な取り組み	自己評価と課題	平田先生
幼稚園教育要領、保育指針を理解し、教育課程、保育課程の編成と実施	・コロナ禍での子どもたちの我慢と開放感を見極め、状況に応じてマスクの着脱を考える。 ・マスクをすることにより、表情や体調が分かりにくいので、こまめに子どもたちへの声かけや、自分たちから声を発せられるよう、環境の雰囲気を大事にする。 ・今までのように、保育参観や行事に一斉に参加、観覧してもらうことができないので、そのかわりになる内容を考えて、少しでも園生活が充実できる工夫をする。 ・給食の時間や野菜の栽培を通して食生活に興味を持たせ、食べられるものを増やす。 ・しっかりと栄養バランスを取って体力をつけ、健康な体をつくる。 ・心の特別配慮を必要とする幼児への対応を、慎重に進める。個々の特性を知り、皆で共有し合って、共に成長する。 ・毎日の預かり保育では、子どもたちの気持ちが安定して、ゆったり過ごすことができるように、環境設定、保育カリキュラムを考える。	【感染対策 A】 ・室内ではマスク着用、ソーシャルディスタンスをしっかりと取って保育をし、屋外ではマスクを外して、歌をうたったりした。そういう環境のメリハリをつけることで、子どもたちのやる気や喜びを引き出すことができた。しかし、個人個人の表情を見て、不調などをもっと察知できるように普段から気を配りたい。 ・行事等で保護者に園内に入ってもらうときは、分散、一方通行など動線を考え、しっかり感染対策が採れるよう工夫した。 【食育 B】 ・ベランダでプランター菜園をして、野菜に興味を持たせた。水やりをすることで、野菜の成長を観察して、喜びや食への関心を仰いだ。 【特別支援 A】 ・子どもの心に寄り添い、無理強いすることをせず、気持ちを分かってあげるよう心がけた。少しずつお互いに信頼感が持てるよう、少しでも成長したことを喜びながら、プラス志向で進めていった。焦らず、保護者とも寄り添いながら、慎重に進めることが大切である。 【預かり保育 A】 ・保護者がお迎えに来られるまで、寂しくないよう、縦割り保育をしたりして、いろんな楽しい保育内容を考えた。	・感染対策 全般的な対策については、しっかりと対応がなされていると感じます。昼食時の黙食なども定着し、大人が見習うべきと思うほどです。 変異株になっても従来通りの対策をするしか手立てがないとのことなので、今一度、従来の対策を徹底しましょう。 お部屋の空気の流れを取り入れるための定期的な換気の再考、清浄機の効果的な使い方、マスク着用時の鼻だしなども気をつけて欲しい点です。 子どもは、納得すればちゃんとして励行してくれます。見守りながら褒めながら実践しましょう。 ・体調管理 異常なほどの気温の上昇、熱中症対策にも従来以上に配慮が必要だと思います。 ・食育と栽培 野菜栽培は、生命の大切さや成長の神秘さを感じる格好の素材です。また、収穫の楽しさや食育にも繋がります。いろいろな角度から保育の素材に活かしましょう。
保育の在り方、子どもへの対応の仕方の改善	・まずは、目の笑顔で子どもたちを迎え、頑張って登園してきたこと労う。もちろん、保護者への声かけもしっかりする。	【挨拶 B】 ・正門や、バスの乗降場所で、子どもたちを元気な声で挨拶して迎えた。年齢が上がるにつれ、	・挨拶 松原ひかり幼稚園の子どもたちは、いつも明るく挨拶ができているように

	・家、幼稚園で、コロナ感染対策を徹底し、状況により、保育環境を整える。 ・身だしなみをきちんとすることにより、カリキュラムをしていく姿勢に影響が出る。 ・先生の話をしっかり聞いて、自分の中で行動の手順を考える。 ・カリキュラムもマンネリ化せず、子どもが喜んで進めていけるよう工夫する。 ・自分の持ち物は丁寧に扱う。準備、片付けもスムーズにできるよう、動線を考える。 ・相手に対して、しっかり顔を見て話を聞いたり、ありがとう、ごめんなさい、などの気持ちが素直に言えるようになる。	挨拶をする子どもが増えていくが、挨拶は特別なものではなく、気軽に声をかけあうものだという意識を持たせたい。 【衛生管理・体調管理 A】 ・子どもたちが登園してくるまでに、保育室、廊下、トイレ、手すり、遊具などを消毒して、環境を整えた。検温も、家、バス、玄関で測り、保育中も昼、夕にも測って、体調をみている。 【身の回りの管理や準備、片付け B】 ・着替え、トイレ後、降園前には、自分でシャツを入れたり、靴下をあげたり、身だしなみをきちんと整えるよう声をかけた。 【子どもとの接し方 A】 ・カリキュラムも個人の理解度、進度をきちんと見て把握し、ゆったりとした気持ちで寄り添っていった。 ・保育士の一方的な保育ではなく、子どもが発する意見や、言葉に耳を傾け、クラスみんなで保育を進めていった。 ・友達内で問題が起こると、双方の言い分を聞き、クラス全体の問題として取り上げ、いろいろな子どもたちの意見を聞いたりして、解決へと導いた。	思います。 挨拶はその仕方とどんなシーンでどんな挨拶をするかがポイントです。先生自らの挨拶は子どもたちのお手本ともなります。いろいろなシーンで元気よく挨拶をすることを心がけましょう。また、「ありがとう」「だいじょうぶ?」「ごめんね」といった思いやりの心も集団生活の中で育みましょう。 ・身辺自立／接し方 1歳でも2歳でもその年齢にできることがあります。子どもたちは自分でありたいと思っています。すぐできる子、時間がかかる子様々ですが、先生の見守って励ましてくれている気持ちは子どもたちの意欲に繋がります。時間の許す限り見守って「できた」という体験をいっぱいさせてあげましょう。コロナ禍で子どもの心も不安になっています。幼稚園は安らぎの場にもなっているので、より寄り添う保育が必要と考えます。
保護者との連携、信頼関係、子育て支援の強化 地域住民との相互理解	・園だより、クラス便り、保険だよりの発行 ・ホームページに、お知らせや行事、日常保育の様子を掲載 ・「てのりの」にて、クラス毎に動画配信する。 ・急を要する時は、保護者にはメールを配信し、連絡する。 ・分散参観、個人懇談を行う ・保護者が連絡帳に記入してきた相談事などに目を通し、放課後電話で対応する ・未就園児教室、保育体験、園庭開放を行う ・夏祭りは、子どもだけで実施する ・行事前には、近隣の方々への配慮、挨拶まわり、お礼などの手紙を入れる ・消防署関係の行事で、「発会式」「花火指導」「防火パレード」を行う ・母の会役員会のオンライン会議	【保護者への情報発信 A】 ・連絡をこまめにアプリで配信した。 ・配布物を減らすため、お便りページを作った。 ・園だよりと共に、子どもたちの声を「子育てミニコラム」として発行した。 ・「子育て通信」を年5回程度発行した。 ・保育の様子や定期的に制作する壁面制作をホームページで紹介した。 ・各クラスで子どもたちの様子を動画配信した。 ・2か月に1回クラスだよりを発行した。 ・臨床心理士による「子育て相談」を毎月1回希望者に提供していた。 ・未就園児教室等では、入園に関する問い合わせや、園内見学を快く受け入れ、丁寧に対応してきた。 ・分散参観は、その対象のお子さんが廊下からよく見えるよう、席を変えたりして配慮した。 ・母の会役員会はほぼオンラインで行った。 ・日頃から役員さんと共に協力し合って、行事がスムーズにいくよう、連絡を密にしている。	・保護者とのコミュニケーション 目的、内容、時間の緊急度、そのコミュニケーション方法等、コロナ禍に応じたいろいろな手段で情報発信が工夫されていると感じます。 情報を受け取る保護者の媒体（端末）も多様化していますので、それを確認しておくことも大切だと思います。 メール等だけでなく、保護者の声を直に声を聞く放課後電話連絡は、とても良いと思います。 ・園、園活動を知ってもらう 在園の保護者には、やはり見てもらうのが一番ですね。実施前に保護者の立場に立って、玄関からの入室・退出までのシミュレーション（どんな視線でどんな声を聞く等）をしておきましょう。 未就園児の保護者には、ホームページで園を見るだけでなく、見学に来て

		【地域住民との相互理解 A】 ・行事等では、音や声で迷惑をかけることもあるので、前もって近隣にお手紙を配布して理解をいただいた。 ・隣接しているお宅の前の道は毎日清掃した。	らうことが大事です。感染対策をしっかりして、子どもたちの元気な声や明るさ、掲示物、先生方の対応などを多くの方に見てもらいましょう。
安全管理と施設設備の点検、補修,管理	・正門その他の場所での防犯カメラの設置 ・毎月、(火災・地震・不審者・Jアラートなど)の避難訓練の実施 ・遊具施設や危険箇所、故障のすみやかな補修の確認をシートで毎月提出してもらう。そして、それを元に、こちらで修理できる所はすぐに直し、無理な時は、運転手さんに相談して手を貸してもらう。 ・災害危険、特別警報等の緊急時のマニュアルの確認	【安全管理 A】 ・インターホンが鳴ると、カメラをチェックして、来園者の確認をしている。来園者は玄関までとし、応対する。 【避難訓練 B】 ・避難訓練は、いろんな時間を設定して、いろんなパターンで訓練している。 ・職員皆で確認し合い、誰もが動けるように、日頃からの訓練を大切にしている。 ・不審者対応が一番難しいと感じている。 【施設管理 B】 ・毎朝、園庭内に不審物がないか見て回り、大型遊具なども、実際に手や足で確認した。ねじが緩んだりしていたら、すぐに修理した。 ・オートロックの門、ICカードリーダー、インターホンの修理など行った。頻繁に使用する機械類は、不具合が起こりやすい。 ・コロナ感染対策で廊下や保育室の床を水拭き、消毒を毎日2回ずつ行ったため、床がとても傷んでしまった。修復が必要である。	・安全管理（不審者侵入） 来訪者に対して、施錠はもちろんのこと、実際にカメラで監視されている、ICカードリーダーでの出入りを行っている等、出入管理体制がしっかりできていると思わせることが大切です。万が一の侵入に対しては、知恵を出し合っている限りの対応シミュレーションを実施しましょう。 ・遊具の安全確認 降雨後の遊具の雨滴拭き取り、暑さからの鉄棒ほか金属の熱上昇もこの時期特有の事故を引き起こす原因となります。遊ぶ前には、必ず子どもの目線や行動予知に配慮したチェックをお願いします。 ・避難訓練 子どもが体で覚えるよう、いろいろなパターンで実践することは大切です。
子どもの健康と安全への配慮	・登降園時の検温・消毒・マスク着用のチェック ・通園バスでの検温・消毒の徹底 ・個人の成長記録(いろんな分野)をしっかりとる。 ・内科・眼科・耳鼻科・歯科検診を行う。 ・身体測定、眼の検査、聴力測定、手洗い指導 歯ブラシ指導の実施。 ・保育環境の日々の清掃、衛生管理、整理整頓 ・自園給食での栄養バランスの改善、アレルギーの細かい対応 ・窓を開けて、換気をまめにする。 ・感染症等が出た際には、園内の消毒を徹底し、感染拡大をふせぐ。 家庭でもできる消毒や処理の仕方をプリントする。 ・夏は園舎内、園庭に蚊取り線香を数か所おき、子どもたちには虫よけスプレーやミストをこまめ	【健康管理 A】 ・玄関で、子どもたち・保護者・来客への検温・消毒・マスクチェックを徹底した。 ・小さなケガの際は、子ども自身で担任に言ってから、看護師の所へ行って診てもらった。 ・定期的に、薬剤師さんに水道水・換気・空気等の検査をしてもらっている。 ・各クラスの給食の様子を報告し合い、問題点があれば皆で考える。栄養士とも連携をとった。また、食育によって食に興味や関心を持たせるよう取り組みを増やしていきたい。 ・感染症で欠席された場合は、必ず登園許可証を持ってきてもらうことを徹底した。 ・子どもたちの手に届かないよう、火の元に気をつけて、蚊取り線香を使用している。 ・感染者が出たクラスは、皆で保育室内の徹底消毒をした。	・健康管理 感染対策は、しっかりなされていると印象を持ちます。消毒・マスク着用など、当たり前になってきた一方、市中では、スルーしたり適当に済ます光景もよく目にします。大変ではありますが、気を緩めず、園での様々な基本対策を励行しましょう。 給食の様子を報告し合うのは良いですね。必要ならば、看護師さん・調理員・栄養士さんなどいろいろな方に見学してもらおうのもいいのではないのでしょうか？ 多方面からの視点は、健康面・マナー面・食育面など、新たな発見や気づきが今後の健康や食育に活かせるように思います。

	に使った。 ・発熱した場合、37.3度以上の時は、熱が下がってから24時間、38度以上の時は、48時間経っからの登園できるとしている。 ・保育室や園庭で危険な場所を把握し、子どもの年齢と動線を考えた環境づくり、見守る場所、声掛けのタイミングを理解し、行う。	【子どもの見守りB】 ・お外遊びの時は、なるべく職員の数を増やし、子どもたちと遊ぶ中で、危険がないようにしたが、どこを見るべきか、どのような状況が危険なのか、どのような声掛けをするのか、を的確に理解し、意識しながら見守ることが大事である。	
--	--	--	--

今後の課題

コロナウイルスだけでなく熱中症や胃腸炎など、時期的に発症が考えられる感染症にも対応できるよう、マスクの着用は不可欠である。また、感染対策も毎日丁寧にやり遂げ、大事な子どもを守らなければならない。保育全般も他人を見る事により、自分を振り返ることができるので、園全体で研修をたくさんして、それぞれに力を磨いてほしい。また、子どもの中に入って一緒に遊ばなければ、その子どものことが見えてこないで、子どもと共に成長するつもりでいなければならない。そういう保育をめざして日々努力し、子どもが「早く幼稚園にいきたい」と言葉が出るようにがんばりたい。そうなれば、園全体も輝き、口コミ等で園見学が増え、入園へと運ぶことができれば嬉しい。職員皆が、気持ちを一つにして進んでいかなければならない。

今後の課題について（平田先生コメント）

コロナ禍にあつては、感染対策・子どもの健康状態・保育時の様子など、これまで以上に子どもの「観察」が重要になってきます。

観察は、いろいろな対応や保育内容のヒントを導き出すことができます。また、一人の視線と他の人との視線は、共通点もあつたり違った見方もあります。先生間の見学の実施やコミュニケーションを活発にし、チームワークで課題解決に当たりましょう。子どもにより寄り添い、より見守ることで、子どもたち全員が「幼稚園は楽しい！」という気持ちになって欲しいと思います。

平田匡邦 